

シンポジウム報告③

公開講演会（北の大地と家畜と私たち）報告

清水 弘

公開講演会実行委員会委員長（北海道畜産学会会長）

(社)日本畜産学会は「畜産に関する学術研究の発表、情報の交換の場としてその進歩普及を図り、もって学術、文化の発展に寄与する」ことを目的とし、従来、研究発表会、学術講演会の開催を通して、会員相互の学術交流を中心とした活動を展開してきました。しかし、日本学術会議や文部省等から、一般市民に畜産に関する啓蒙・啓蒙等の社会へのサービスも要望されています。AAAP等の国際会議開催の際には、市民向けの講演会を開催してきた実績はありますが、この種の企画は殆ど催されてきませんでした。生産効率改善のための飼料への種々の添加剤あるいは最近話題のダイオキシンや環境ホルモンの食肉や牛乳などへの残留・汚染や細菌の汚染が危惧され、安全な畜産物に対する一般市民の関心が強まっています。また、クローン羊や牛が生産できる先端科学の発展についても、その家畜への応用や人への応用に関して倫理面をも含めて強い興味を持たれてきています。このような社会の情勢を考慮し、畜産物の直接の消費者である一般市民に、畜産の現状並びに畜産分野における先端技術を正しく理解して頂くための啓蒙と、そのことを通して文化の発展に寄与するために公開講演会を開くことになり、昨年度東京大学において、第1回の講演会「暮らしの中の動物たち—動物利用の歴史とフロンティア—」を開催しました。

次いで、第2回目の講演会の札幌開催の依頼が(社)日本畜産学会北海道支部にあり、関係者とも相談し、引き受けることになり、評議員会の了承を頂いて北海道畜産学会も主催に加わり開催することになりました。運営組織として、北海道大学畜産科学科関係者を中心に北海道畜産学会関係者に加わって頂き、資料3の公開講演会実行委員会を組織して準備し、12月5日(土)午後北海道大学学術交流会館で開催しました。昨年度の講演会は東京での開催もあり「人と動物のかかわり」に関する内容でしたが、今回は、畜産の中心地北海道内での開催に相応しく、畜産の色彩を高め、「自然環境と調和した家畜生産」を目指して努力している畜産の姿を一般市民に正しく学んで頂き、理解を深めて頂ける内容としました(資料1のプログラム参照)。

個々の講演の内容につきましては、次年度の会報に掲載の予定で準備を進めていますので、詳しい内容につきましては省略いたします。講演会は久保正彦(北

大農)、服部昭仁(北大農)の司会で進行し、開会に当たり、菅野茂(社)日本畜産学会会長の挨拶があり、第1部「自然と家畜と人のかかわり」で2題の基調講演と、第2部「北海道の自然がつくるおいしい牛肉・牛乳」で3題の講演があり、その後「質問コーナー」で市民からの質問に答えました。

第1部で、まず、東京農工大学鬼頭秀一教授からは、人類の生存にとって、人と自然環境との共生が大切であり、日常生活の中で具体的にどう対処するかを解り易くお話し頂きました。スーパーストアで直接手に入れる牛肉を「切り身」とし、それがどの様にして作られるかを含め牛肉を生産する家畜を「生身(なまみ)」と対比して、例えば、肉料理の食事の際に(切り身を通して)、その生産過程を含めて家畜(生身)に感謝の念を持つ事により、双方向のかかわりが存在する。自然との共生においても、一方向のかかわり(収奪)でなく、その対象を生身として正しく認識して、双方向のかかわりを持つ事の大切さを解り易く、お話し頂きました。次いで、近藤誠司北海道大学農学部助教授から、「家畜の生産と環境との調和」と題して、家畜生

誰かが動物などと
生きている

北の大地と
家畜と私たち

日時: 平成10年12月5日(土) 13:00~17:00
会場: 北海道大学 学術交流会館 講堂

主催: 日本畜産学会、北海道畜産学会、札幌市畜産振興委員会
協賛: 北海道大学畜産科学科関係者

第1部 自然と家畜と人のかかわり
人と動物のかかわり(なまみ)の
かかわりを通して 服部昭仁 北海道大学畜産科学科関係者
家畜の生産と環境との調和 近藤誠司 北海道大学農学部助教授

第2部 北海道の自然がつくるおいしい牛肉・牛乳
北海道の自然と牛肉 近藤誠司 北海道大学農学部助教授
おいしい牛乳 近藤誠司 北海道大学農学部助教授
人と動物のかかわり 近藤誠司 北海道大学農学部助教授

参加無料



産と自然環境とのかかわりについて講演して頂き、「マンションで乳牛を飼育したら？」の話の導入は聴衆に大きなインパクトを与えました。マンションの中で乳牛と共に住み、飼料を給与し、搾乳し、煮沸殺菌して、一見、自家生産の牛乳を飲むことは可能であるが、牛の糞尿処理がネックとなり不可能であること、排泄物の分解処理は生態系に任す事が尤も合理的であり、中国の草原地帯での家畜生産や北海道の酪農家の事例を紹介され、将来に向け、自然環境との共生を基本にした畜産の見直しについてお話を頂きました。

第2部では、牛肉・牛肉はどのようにして作られているのか？ また、安全で健全な畜産物に深く関わる動物と人の健康についての3題の講演をお願いしました。北海道立新得畜産試験場川崎勉畜産部長から、「北海道の自然と牛肉」と題して、肉牛の種類、おいしい牛肉はどのようにして作られているのか、精肉になるまでの過程について詳しく解説して頂きました。そして、北海道での牛肉の消費量が全国的にも少なく、北海道で生産される牛肉を市民の皆さんがもっと沢山食べてくださること強く要望されました。次いで、牛乳のおいしさはどこからくるのか？「おいしい牛乳」について、サツラク農業協同組合野名辰二企画開発課長に講演して頂きました。牛乳の本来の風味についてその化学成分、おいしい風味の牛乳を生産する飼育管理、その風味を損なわずに、衛生的で安全な牛乳加工処理過程と技術、更に流通と消費者のもとでの保存について身近な話題を丁寧にお話しして頂きました。最後に、「人と動物の健康」と題して北海道大学獣医学研究科神谷正男教授に、人と動物に共通な寄生虫

による病気であるエキノコックス症について、その寄生虫の生活環とペットであるイヌ、ネコや身近な動物であるキツネ、タヌキ等との関連、更に、現在神谷先生のグループを中心にして試みられている、駆虫薬或いはワクチンを適用した野生動物からの寄生虫の排除を組み込んだ「臨床検査・監視システム」の技術開発についての最新の情報まで解説して頂きました。

300席の会場にほぼ満席に近い約270名の一般聴衆が参加して下さり、質問コーナーでも予定の時間を大幅に超過する多くの質問が寄せられ、参加された方々が畜産に関して日頃強い関心を持っておられる事が伺えると共に、今回の講演会が成功裏に開催できました。当日の参加者にお願したアンケート調査の集計結果(資料2)から(回収率56%)、年齢層別には29歳以下の学生がその多くを占めていますが、30歳以上の多数の市民が参加して下さったと推測されます。また、公演内容についても「大変面白かった」、「まあまあ面白かった」が全体の93%を占めており、内容的にも立派であり、講師の先生方が解りやすくお話しして下さったためだと思われます。改めて講師の先生方に感謝申し上げます。しかし、講演会全体としてのまとめりや、個々の講演間の関連性についての厳しいご指摘も頂きました。幅広い年齢層や多様な関心を持つ市民を対象とした今後のこの種の催に参考となる貴重な意見や、運営面でのご指摘も頂いています。

今回の講演会は幾つかの反省点も在りますが、一応成功裏に開催できたと評価しています。これも一重に実行委員会委員、事務局員並びに多くの関係者のご協力・ご支援に依るものと深く感謝申し上げます。

資料1 公開講演会プログラム

主催；(社)日本畜産学会、北海道畜産学会、後援；札幌市教育委員会

日時；平成10年12月5日(土) 午後1時より5時まで

会場；北海道大学 学術交流会館 講堂(札幌市北区北8条西5丁目)

北の大地と家畜と私たち 一環境と調和した畜産を考える一

13:00~13:05 開会の挨拶

(社)日本畜産学会会長 菅野 茂

第1部 自然と家畜と人のかかわり

13:05~13:45	人と自然との〈生身(なまみ)〉のかかわりを求めて	東京農工大学農学部 教授	鬼頭 秀一
13:45~14:25	家畜の生産と環境との調和	北海道大学農学部 助教授	近藤 誠司
14:25~14:40		— 休 憩 —	
第2部 北海道の自然がつくるおいしい牛肉・牛乳			
14:40~15:15	北海道の自然と牛肉	北海道立新得畜産試験場 家畜部長	川崎 勉
15:15~15:50	おいしい牛乳	サツラク農業協同組合 企画開発課長	野名 辰二
15:50~16:25	人と動物の健康	北海道大学大学院獣医学研究科 教授	神谷 正男
16:25~16:55	質疑応答(質問コーナー)		
16:55~17:00	閉会の挨拶	北海道畜産学会会長	清水 弘

資料2 公開講演会一般参加者に依頼したアンケート調査とその集約結果

(1) アンケート用紙

本日は御参加頂きありがとうございました。

お手数ですが今後の学会活動の参考のために、以下のアンケートに御記入の上、お帰りの際に出口前のアンケート回収箱に入れて頂きたく存じます。

以下のアンケートに、該当する箇所には○を付けてお答え下さい。

アンケート1 あなたの年齢および性別は？

年齢

- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 1. 11歳以下 | 2. 12歳~15歳 | 3. 16歳~18歳 | 4. 19歳~22歳 |
| 5. 22歳~29歳 | 6. 30歳~39歳 | 7. 40歳~49歳 | 8. 50歳~59歳 |
| 9. 60歳~69歳 | 10. 70歳以上 | | |

性別

1. 女 2. 男

アンケート2 どちらからお越しになりましたか？

1. 札幌市内 2. 札幌近郊() 3. その他()

アンケート3 今回の公開講演会をどのようにしてお知りになりましたか？

1. ポスターをみて 2. パンフレットを見て 3. 友人・知人等から聞いて
4. インターネットを見て 5. その他()

アンケート4 公開講演会の内容は全体としていかがでしたか？

1. たいへん面白かった 2. まあまあ面白かった 3. あまり面白くなかった
4. つまらなかった

アンケートは以上です。有り難うございました。

なお、今回の公開講演会に対する御感想とこれからの学会活動に対する御要望などが在りましたら、以下にご記入ください。

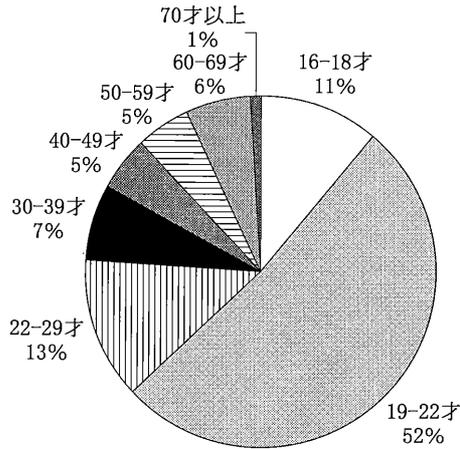
(2) アンケート集約結果

回収枚数：152 回収率：56.30% 参加者：270名

アンケート1；あなたの年齢および性別は？

年齢構成

16-18才	16
19-22才	81
22-29才	20
30-39才	10
40-49才	7
50-59才	8
60-69才	9
70才以上	1
計	152

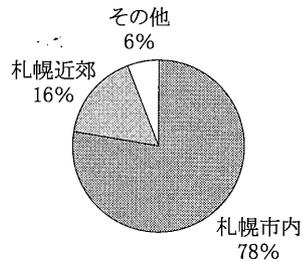


性別

女	59	40.70%
男	86	59.30%

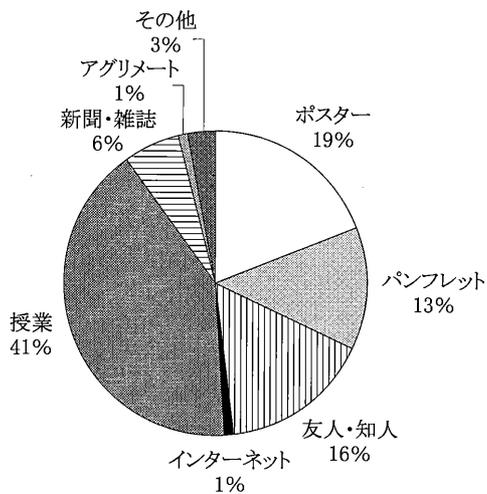
アンケート2；どちらからお越しになりましたか？

札幌市内	118
札幌近郊	25
その他	9



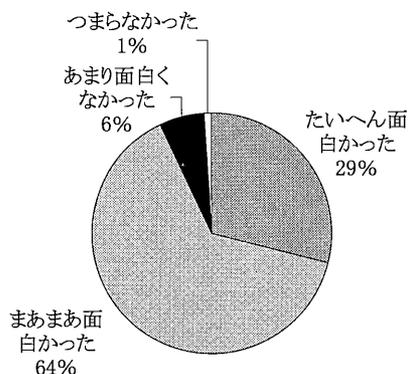
アンケート3；公開講演会をどのようにしてお知りになりましたか？

ポスター	29
パンフレット	20
友人・知人	25
インターネット	2
授業	61
新聞・雑誌	9
アグリメート	2
その他	4



アンケート 4；公開講演会の内容は全体としていかがでしたか？

たいへん面白かった	41
まあまあ面白かった	91
あまり面白くなかった	8
つまらなかった	1



公開講演会に対する御感想（アンケートの集約結果の後半の一部です）

1. 公開講演会全般に関して

- (1) 「有意義であった」、「勉強になった」、
「畜産、学会に対するイメージが変わった」：22名

(2) 印象に残った講演内容

- a. エキノコックス ; 5名
b. 牛乳 ; 5名
c. 自然と畜産との関わり ; 4名

身近な問題に特に興味を持つ傾向が認められる。例えば、

- ・日頃登山をするので、エキノコックスの話に興味を持った。
- ・牛乳を毎日飲んでおり、牛乳に興味を持った。

2. 講演会のテーマ・内容について

- (1) 「よく理解できた」；5名
(2) 「幅広い講師・内容で良かった」5名

3. 講演会のテーマ・内容についての要望（年配者）

- ・テーマをもっと絞った講演内容を期待していた。
- ・畜産の将来展望をも期待していた。
- ・環境問題にもっと踏み込んだ内容を期待していた。
- ・基調講演と具体的問題の講演内容の繋がりが希薄であった。
- ・専門用語の解説も含めて、市民に理解しやすい表現を希望する。

4. 運営面でのご指摘

- ・OHPは見にくい。
- ・写真は鮮明で良かった。
- ・照明が暗く、メモがとれない。
- ・時間通り終わって欲しい（2名；学生？）
- ・牛乳・クッキーのサービスはありがたい（4名）

5. PR活動について

- ・PR活動が不十分でないか（5名）
- ・一般市民の参加が少なかった。

6. 今後の期待

- (1) 今後とも公開講演会の開催を希望する：4名
・学会・研究活動の成果を市民に解説する機会をもっと多く企画してください。
- (2) 場所・日時など
・里ランド・ファクトリー
・土・日曜日

資料3 公開講演会実行委員会委員

委員長 清水 弘（北大農）

委員 左 久（帯畜大），大久保正彦（北大農），田中 桂一（北大農），
高橋 興威（北大農），島崎 敬一（北大農），近藤 敬治（北大農），
三河 勝彦（北大農），西部 慎三（北農会），安藤 功一（酪農大）
竹下 潔（北農試）
事務局員 上田 純治，近藤 誠司，西邑 隆徳，服部 昭仁，中村富美男（北大農）